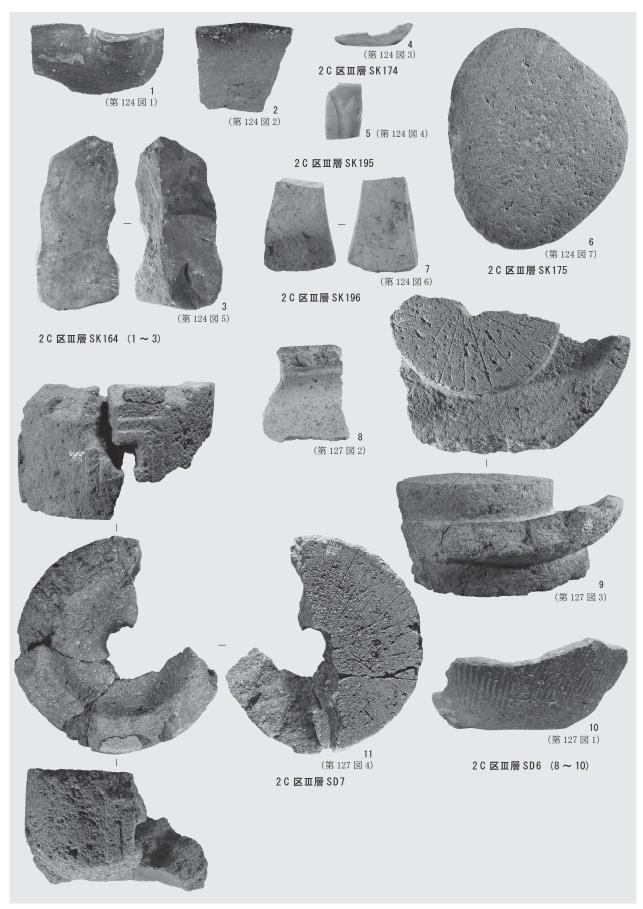
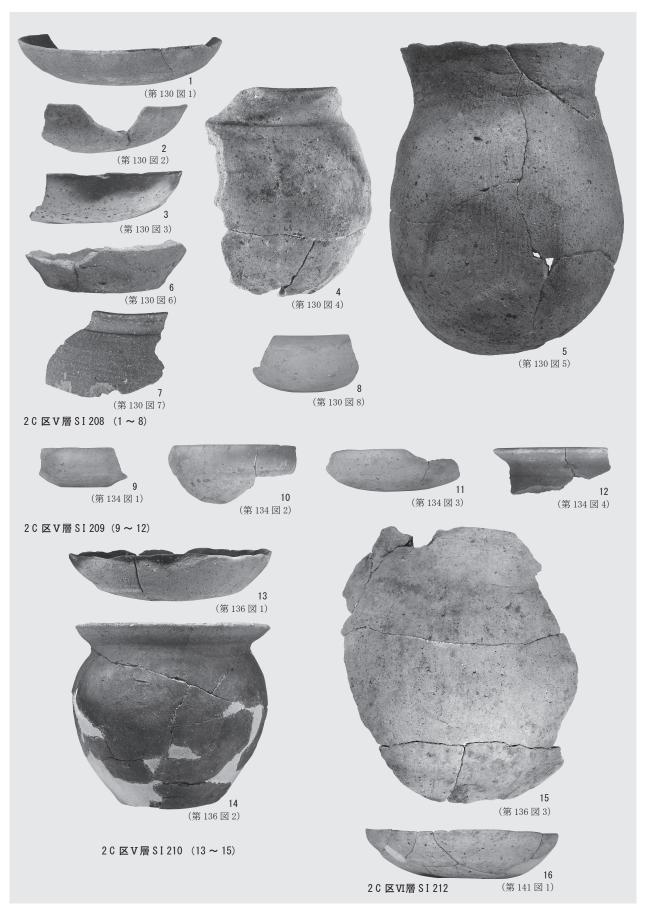


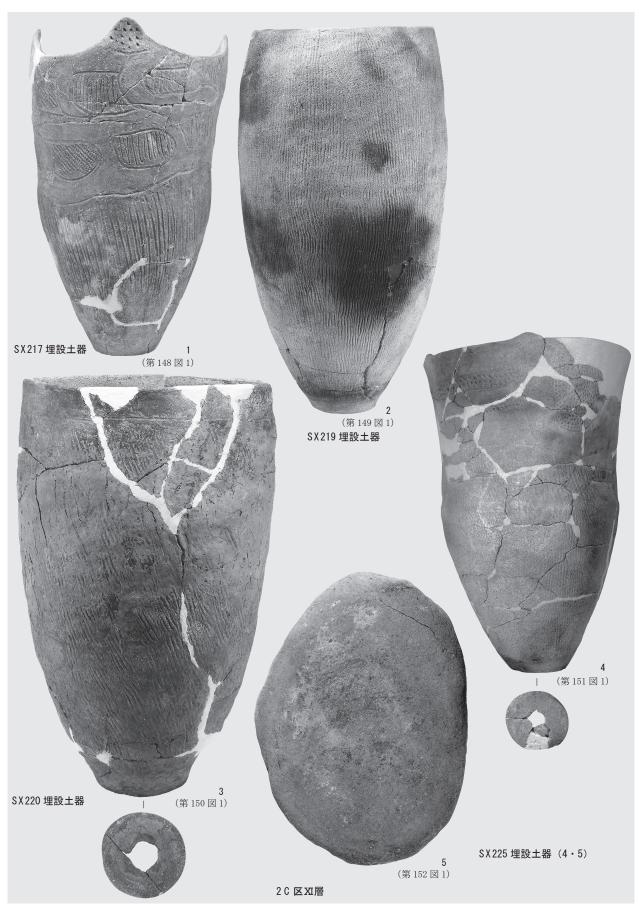
写真図版37 下ノ内遺跡出土遺物(16)



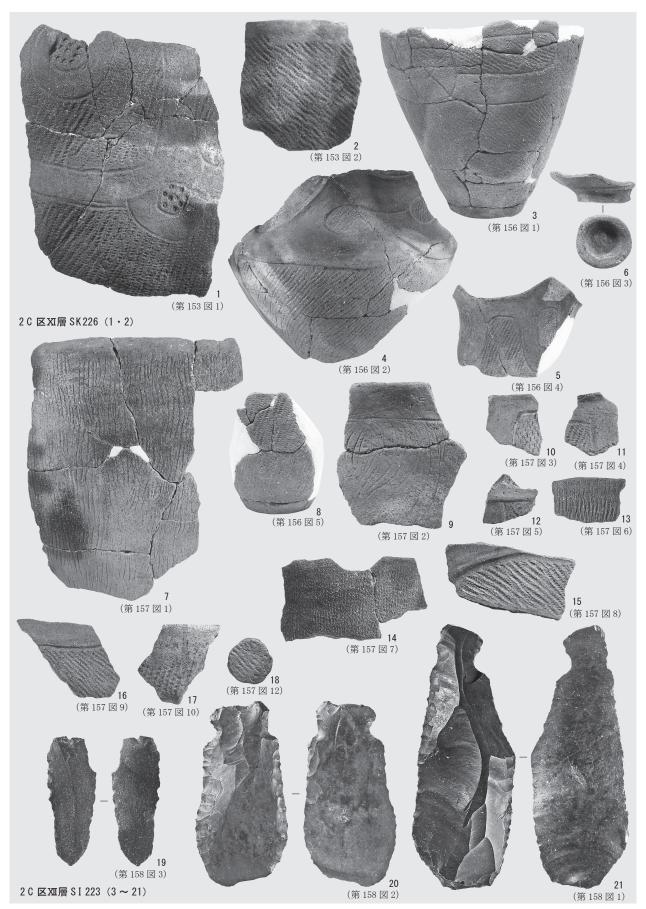
写真図版38 下ノ内遺跡出土遺物(17)



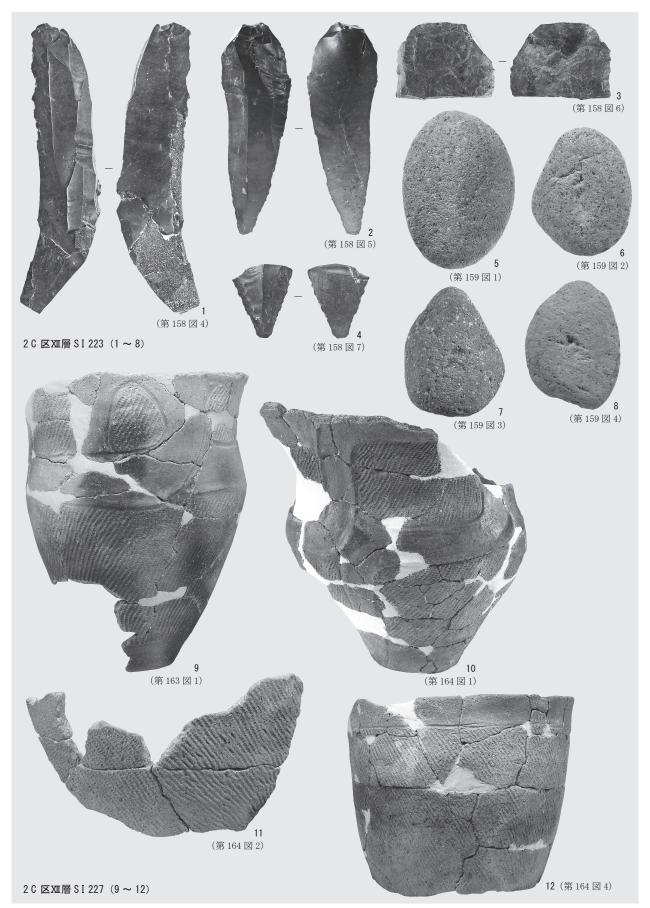
写真図版39 下ノ内遺跡出土遺物(18)



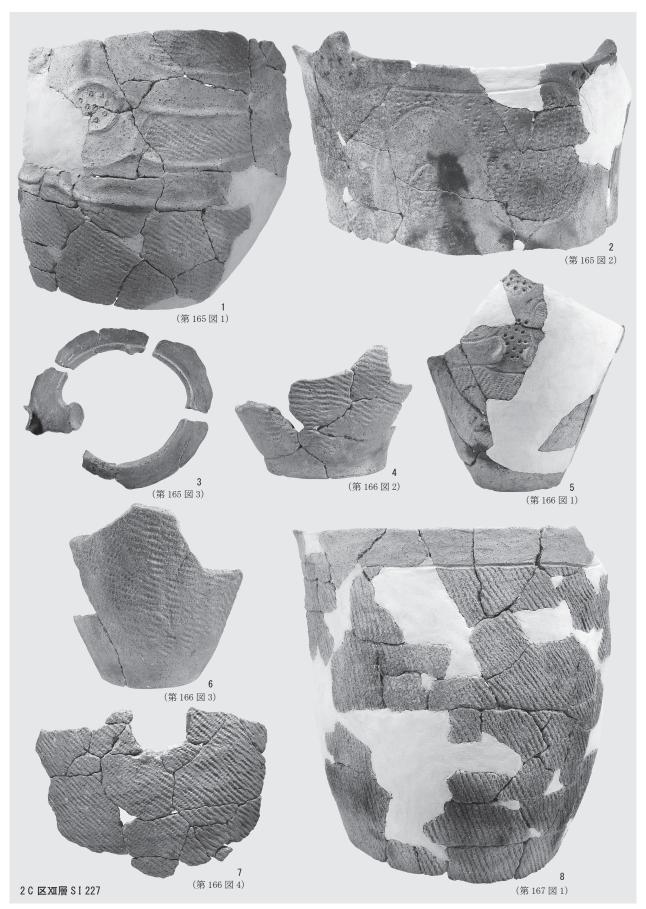
写真図版40 下ノ内遺跡出土遺物(19)



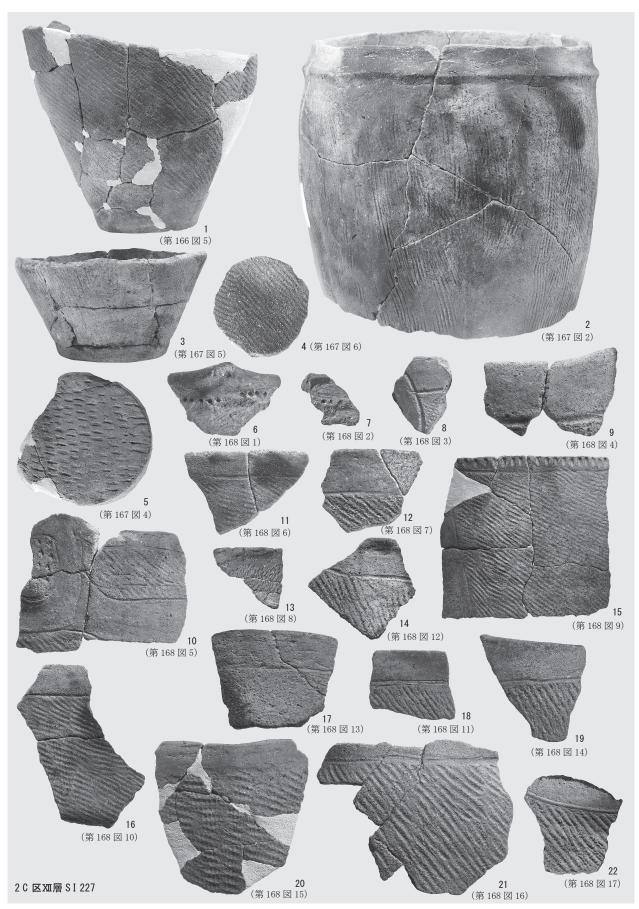
写真図版41 下ノ内遺跡出土遺物(20)



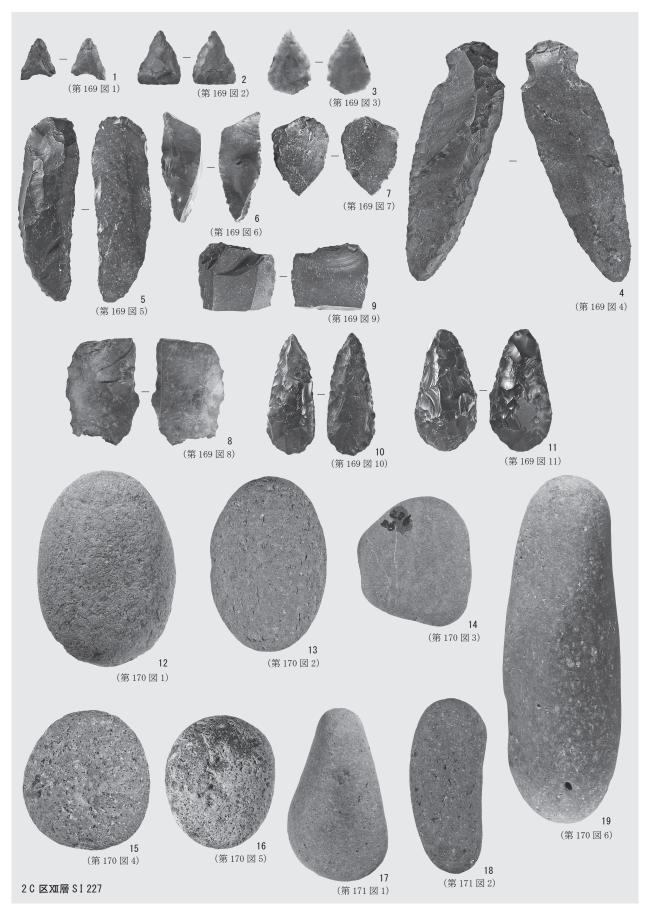
写真図版42 下ノ内遺跡出土遺物(21)



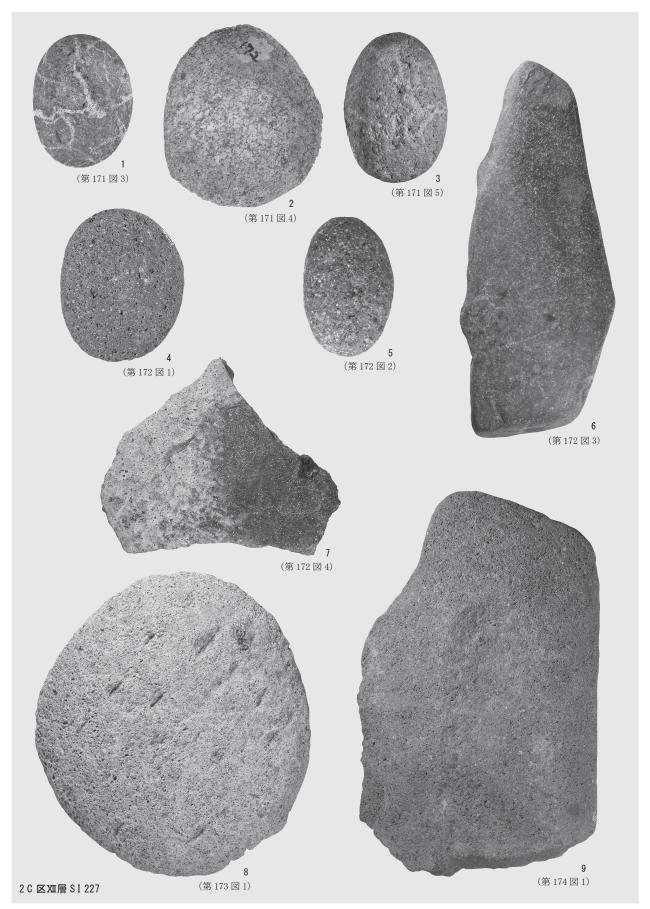
写真図版43 下ノ内遺跡出土遺物(22)



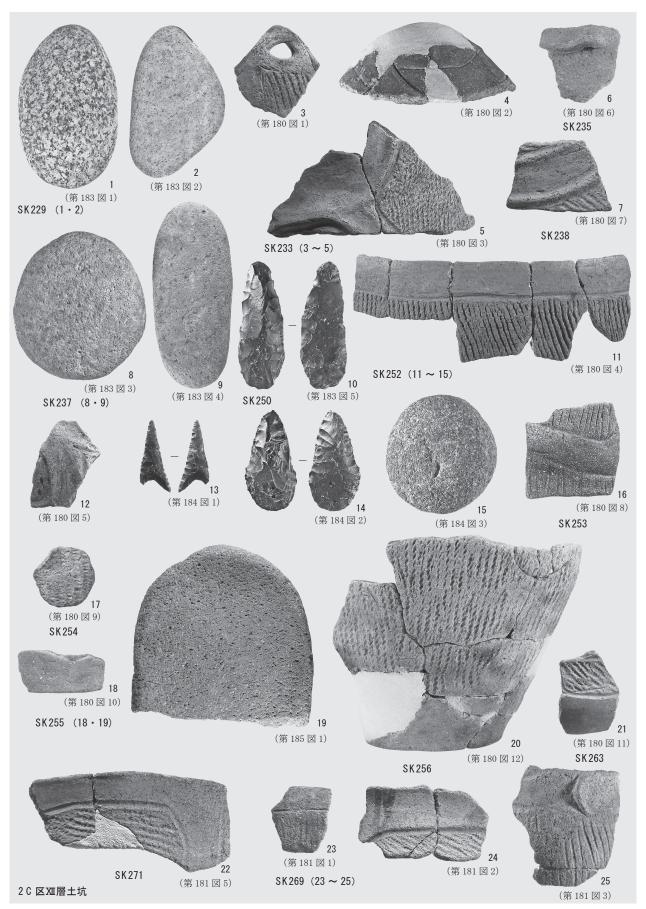
写真図版44 下ノ内遺跡出土遺物(23)



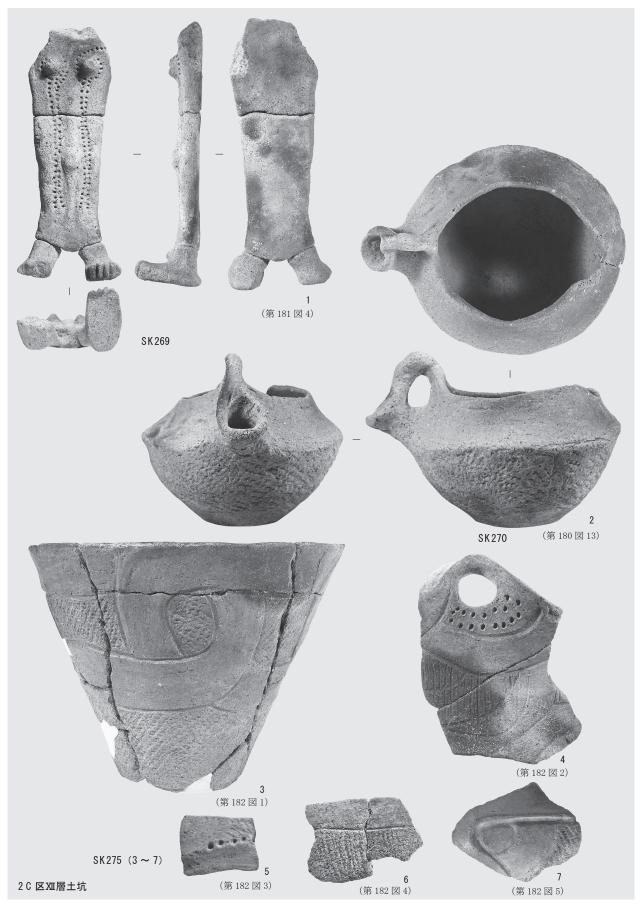
写真図版45 下ノ内遺跡出土遺物(24)



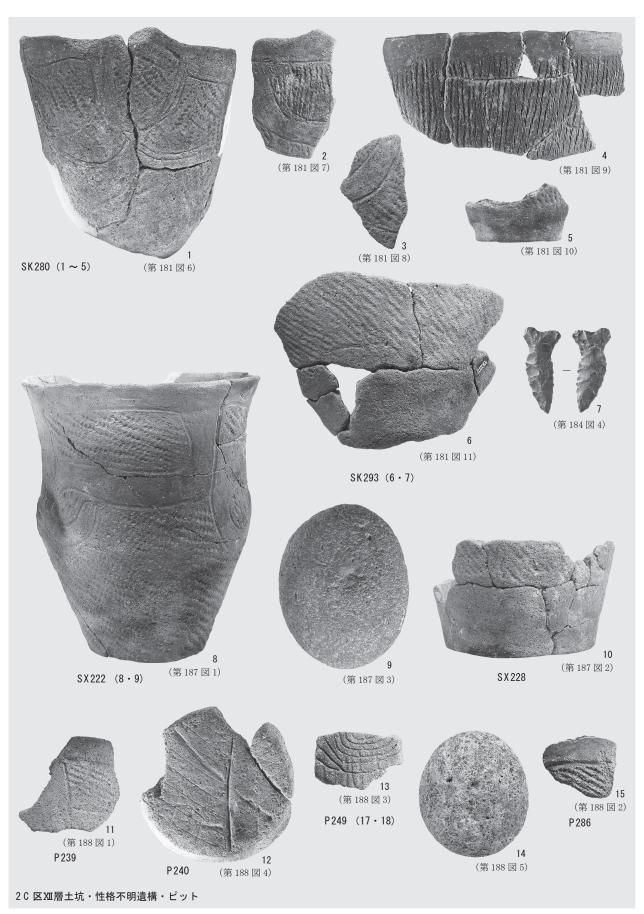
写真図版46 下ノ内遺跡出土遺物(25)



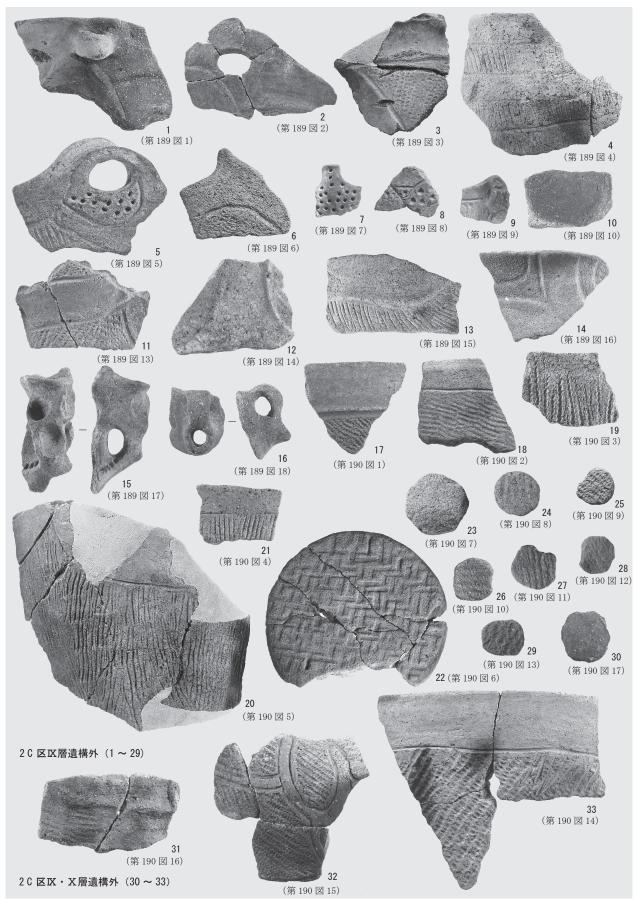
写真図版47 下ノ内遺跡出土遺物(26)



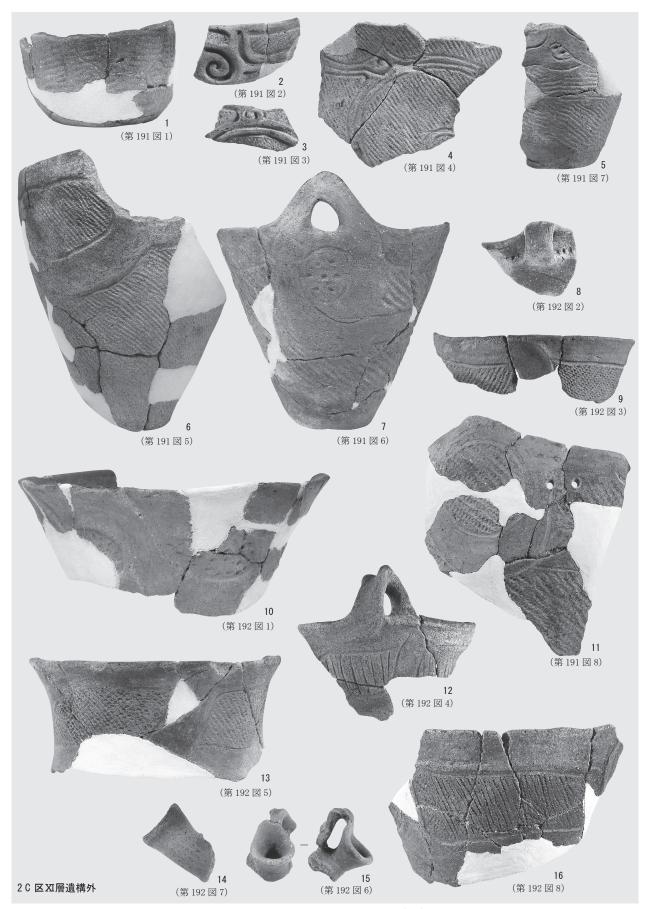
写真図版48 下ノ内遺跡出土遺物(27)



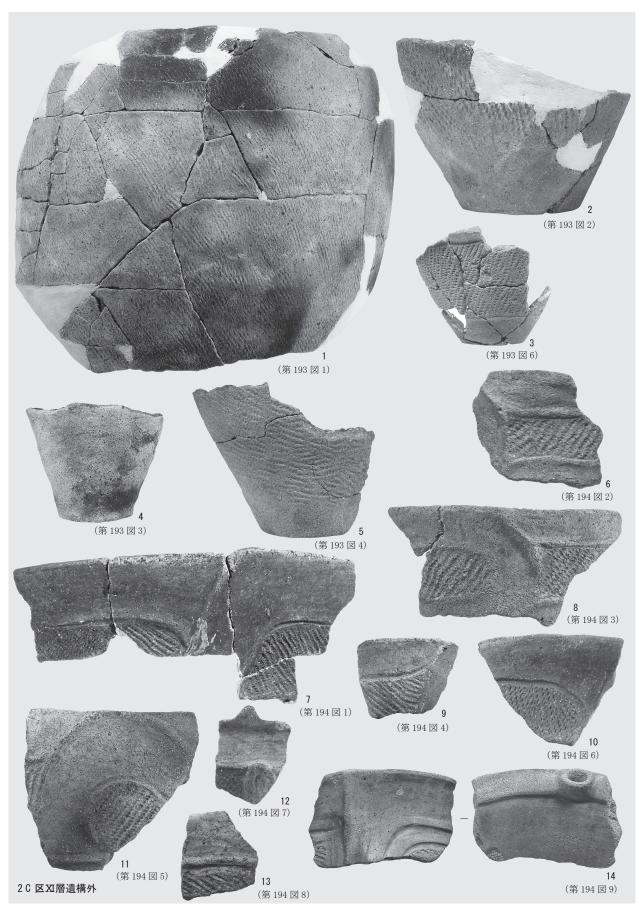
写真図版49 下ノ内遺跡出土遺物(28)



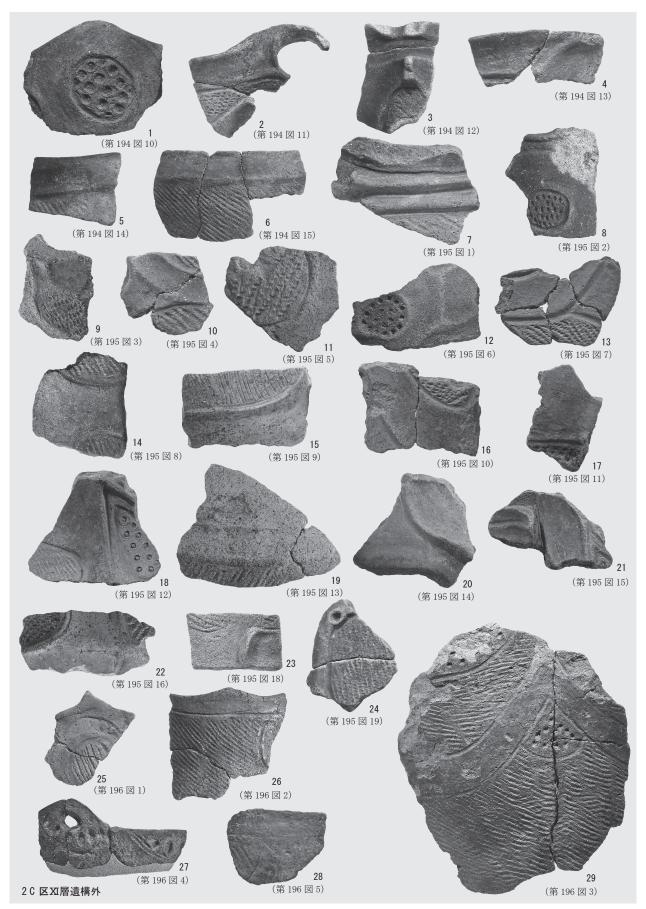
写真図版50 下ノ内遺跡出土遺物(29)



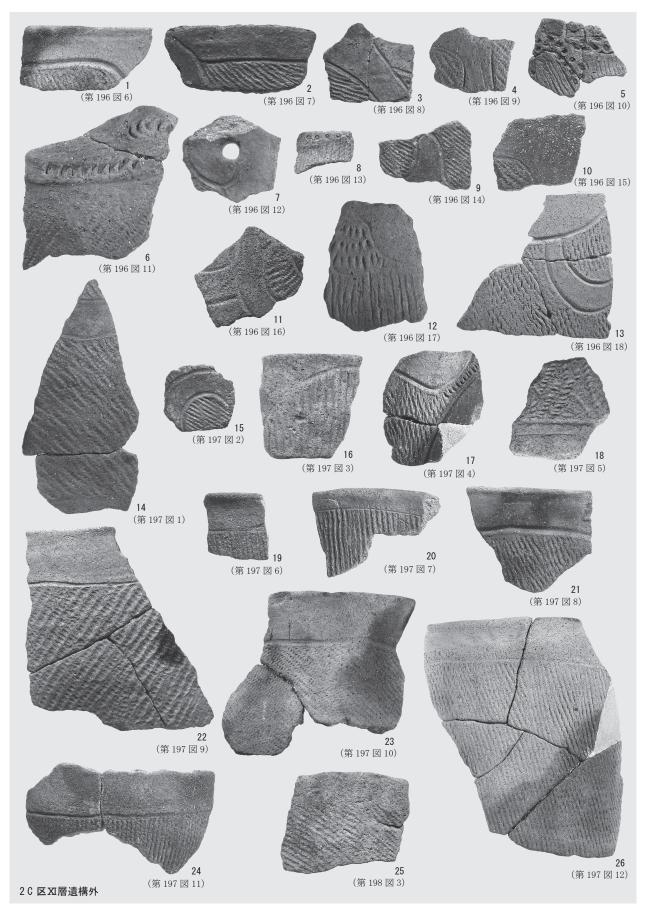
写真図版51 下ノ内遺跡出土遺物(30)



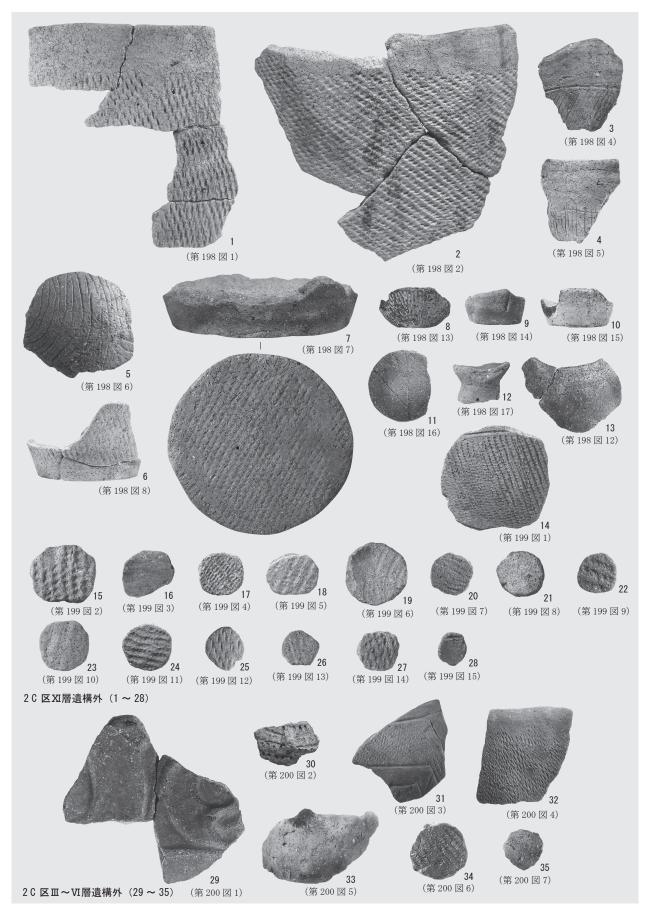
写真図版52 下ノ内遺跡出土遺物(31)



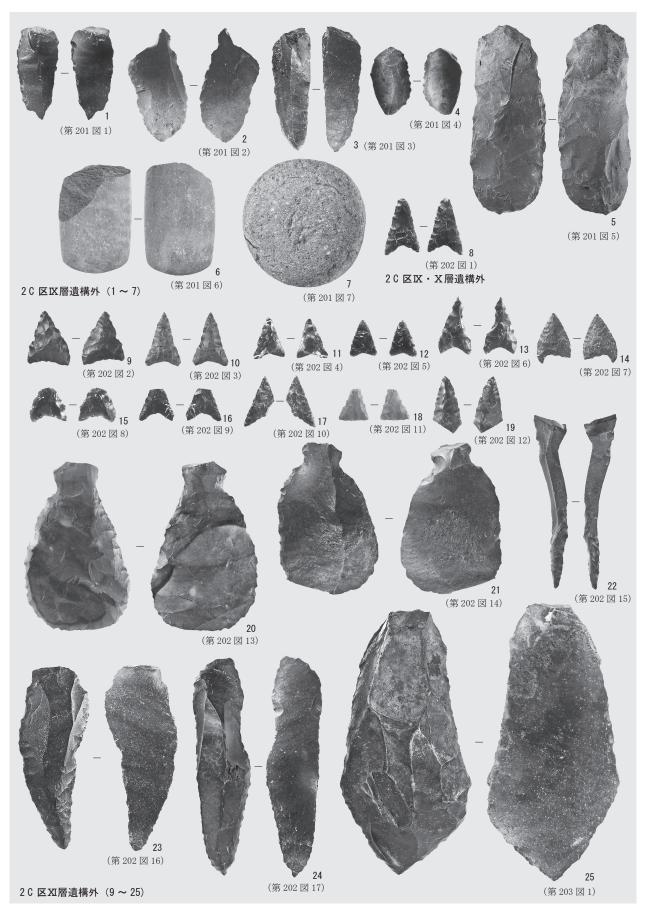
写真図版53 下ノ内遺跡出土遺物 (32)



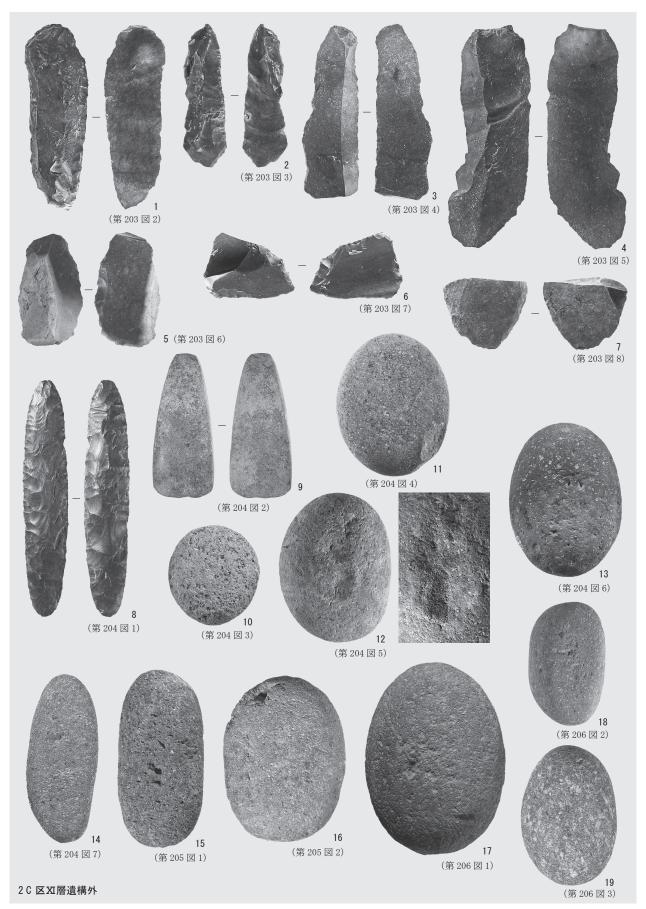
写真図版54 下ノ内遺跡出土遺物 (33)



写真図版55 下ノ内遺跡出土遺物 (34)



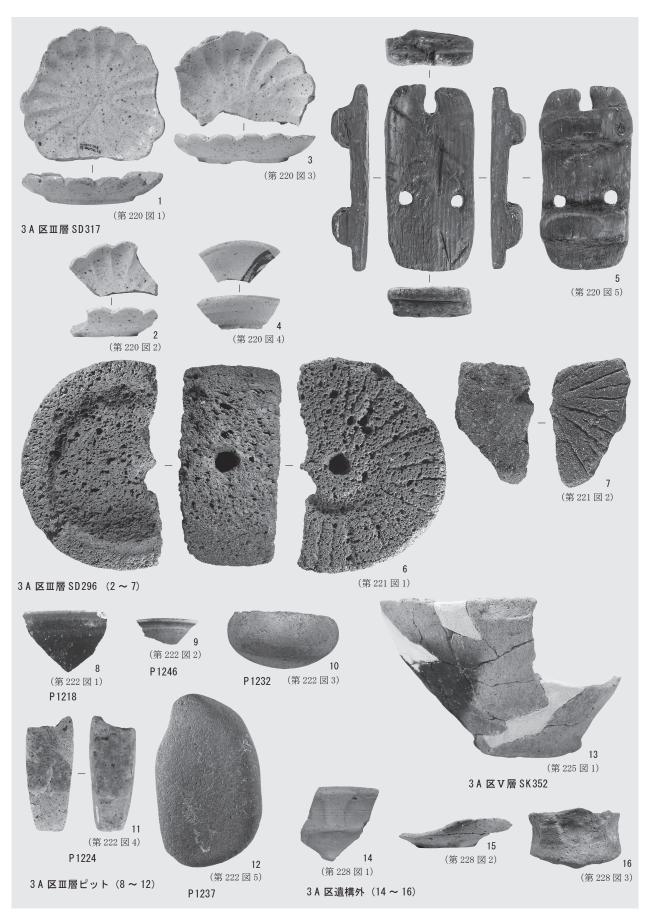
写真図版56 下ノ内遺跡出土遺物(35)



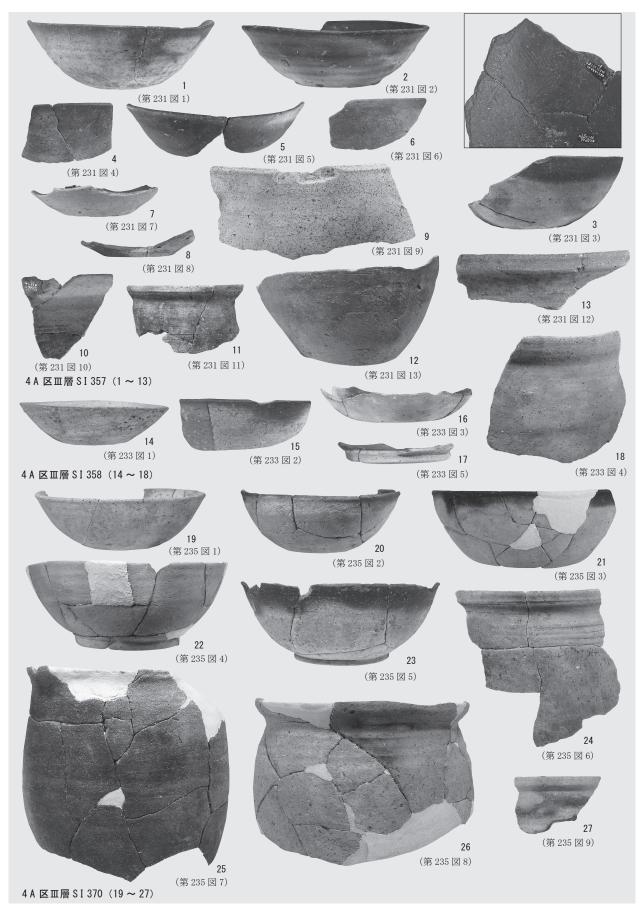
写真図版57 下ノ内遺跡出土遺物(36)



写真図版58 下ノ内遺跡出土遺物 (37)



写真図版59 下ノ内遺跡出土遺物(38)



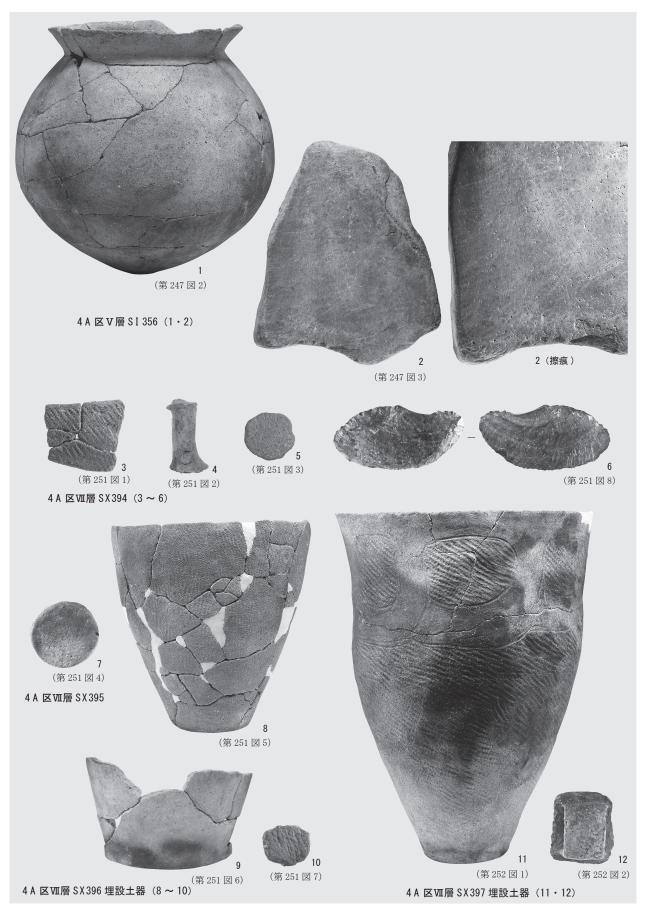
写真図版60 下ノ内遺跡出土遺物(39)



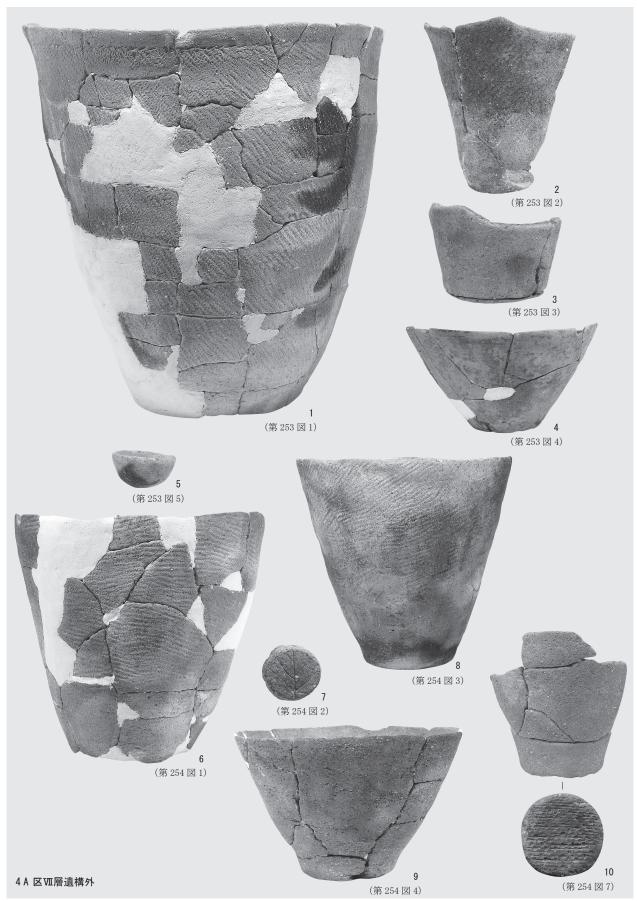
写真図版61 下ノ内遺跡出土遺物(40)



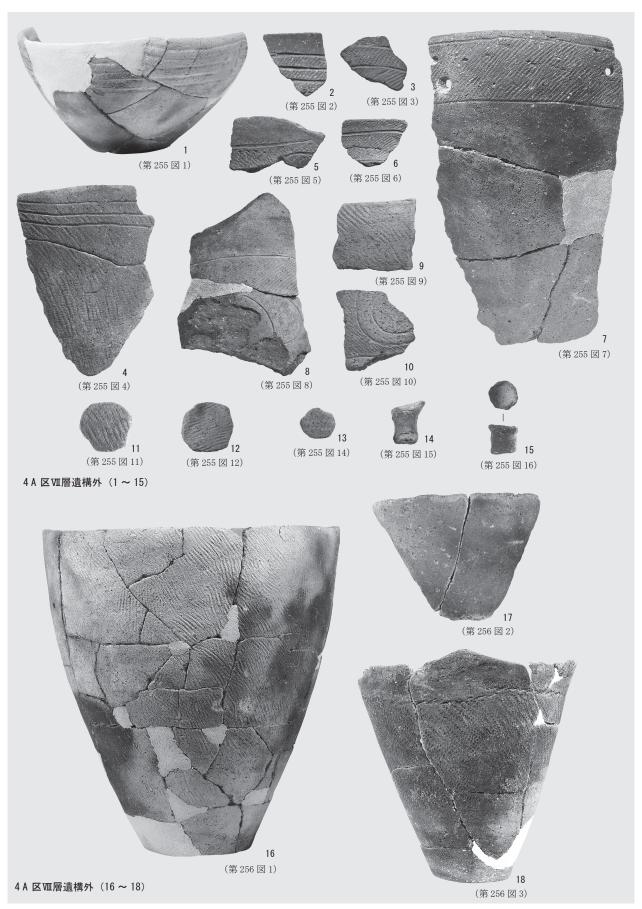
写真図版62 下ノ内遺跡出土遺物(41)



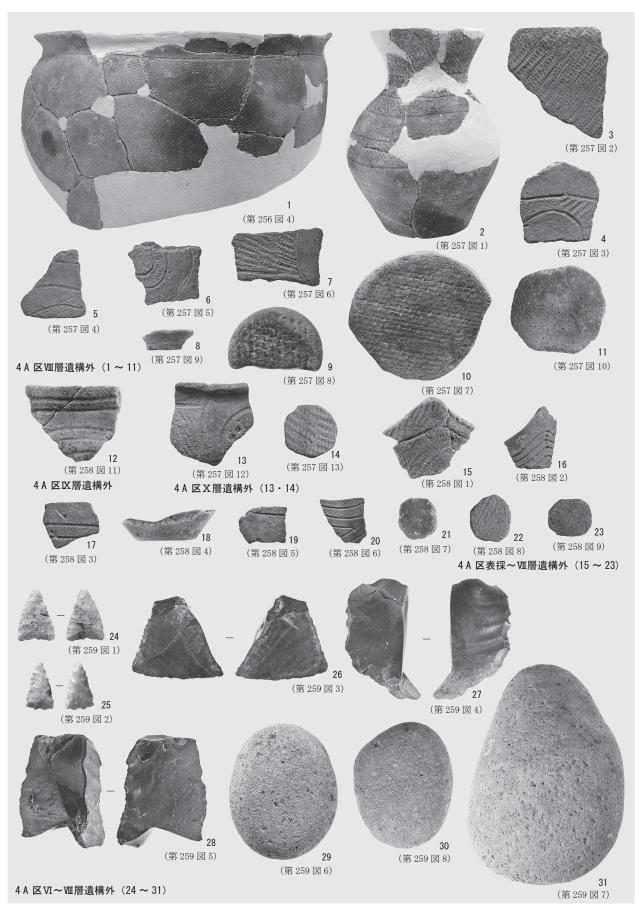
写真図版63 下ノ内遺跡出土遺物(42)



写真図版64 下ノ内遺跡出土遺物(43)



写真図版65 下ノ内遺跡出土遺物(44)



写真図版66 下ノ内遺跡出土遺物(45)



写真図版67 下ノ内遺跡出土遺物(46)

第5節 大野田古墳群

1. 調查要項

- (1)遺跡名:大野田古墳群(宮城県遺跡登録番号01361)
- (2) 所在地:仙台市太白区大野田字宫、宫脇、竹松、千刈田
- (3)調査面積:約5,448㎡
 - ·平成12年度:約590㎡(5A区)
 - ・平成13年度:約530㎡ (6A・6B・6C区)
 - ・平成14年度:約1.890㎡ (7A・7B・7C・7D・7E区)
 - ・平成15年度:約1,780㎡(8A・8B区)
 - ・平成16年度:約658㎡ (9A・9B区)
- (4) 調査主体: 仙台市教育委員会
- (5)調查担当:仙台市教育委員会文化財課
- (6) 担当職員
 - ・平成12年度:渡部 紀・阿部博朗
 - ・平成13年度:篠原信彦・荒井 格・阿部博朗
 - ・平成14年度:吉岡恭平・阿部博朗・宮内 周
 - ・平成15年度:佐藤 淳・橋本顕嗣
 - ・平成16年度: 荒井 格・木幡賀一

(7)調査期間

(野外調査)・平成12年度:平成12年5月1日~6月26日

- ·平成13年度:平成13年7月11日~10月9日
- ·平成14年度:平成14年8月5日~平成15年1月16日
- ·平成15年度:平成15年7月1日~12月9日
- ・平成16年度:平成16年5月7日~10月20日

(整理作業) 各調査終了後に基礎整理を行い、以下の期間で一括最終整理を実施した。

·平成22年6月18日~平成23年3月31日

2. 5A区の調査

5A区では基本層 V 層上面(古墳時代~古代の遺構検出面)において、土坑 2 基、溝跡 1 条、性格不明遺構 1 基、 小溝状遺構群 1 群、柵列 2 列、ピット265基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なもの は確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) V層検出の遺構と遺物(第1図、図版1)

1) 土 坑

SK254土坑(第2図) E190・S30グリッドで検出し、南西端は撹乱で削平されている。小溝状遺構 I-5、P3837~3840と重複し、P3837・3838より古く、他の遺構より新しい。平面形は楕円形で、長軸方向はN-34°-E である。規模は長軸135cm、短軸105cm、深さ10cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状で、底面はほぼ平坦である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK255土坑(第2図) E180・S40グリッドで検出し、西側の調査区外へ延びる。平面形は不明であり、検出し



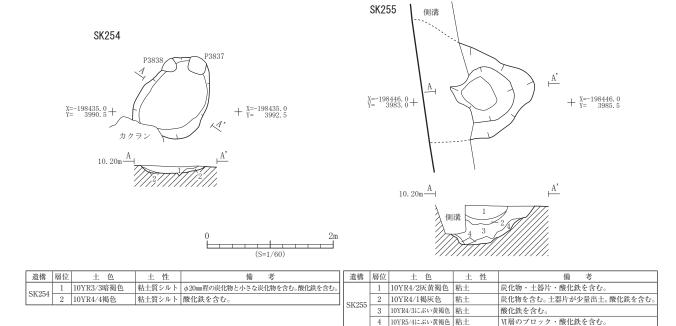
た規模は南北155cm、東西145cm、深さ63cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は4層に分層される。遺物は、土器の小片が出土した。

2) 性格不明遺構

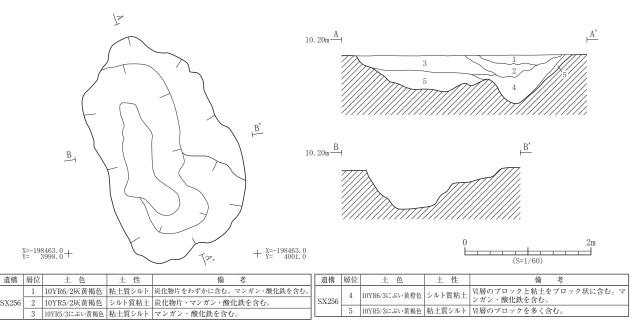
SX256性格不明遺構(第3図) $E190\sim200\cdot S50\sim60$ グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向はN-20°-Wである。規模は長軸350cm、短軸218cm、深さ15~79cmで、底面には段差があり、断面形は概ね逆台形である。堆積土は5層に分層される。遺物は出土していない。

3) 溝跡

SD253 (第1図) 大野田官衙遺跡の遺構であることから、詳細は第8節を参照されたい。



第2図 SK254·255土坑平面図・断面図

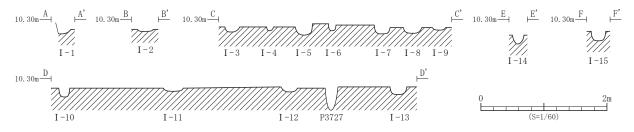


第3図 SX256性格不明遺構平面図·断面図

4) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群であり、I群を検出した。

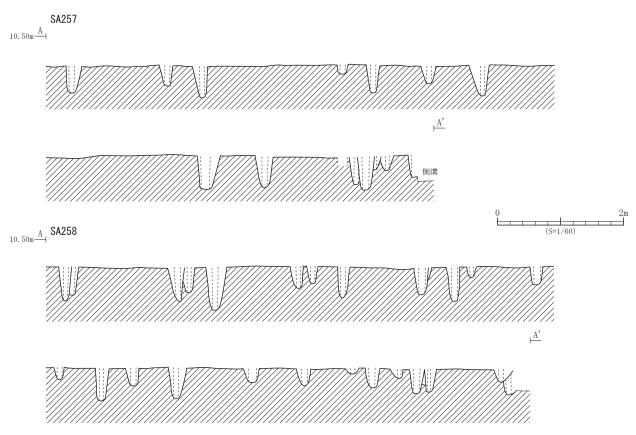
I 群(第 $1\cdot 4$ 図) E $180\sim 200\cdot S20\sim 40$ グリッドで検出され、15 条の小溝で構成されている。方向は I -15 をのぞき N $-1\sim 8$ ° - W \cdot N $-4\sim 8$ ° - E で南北方向の溝である。検出長 $0.70\sim 7.65$ m、幅 $15\sim 50$ cm、深さ $3\sim 20$ cm、小溝の間隔は $0.20\sim 2.20$ mである。遺物は出土していない。



第4図 小溝状遺構群断面図

5) 柵 列

SA257柵列(第 $1\cdot5$ 図) E $180\sim200\cdot$ S30グリッドで検出した。方向はほぼ東西正方向である。楕円形・円形・隅丸方形のピット15基(P $3784\cdot3792\cdot3794\cdot3797\cdot3798\cdot3807\cdot3860\cdot3864\cdot3865\cdot3871\cdot3872\cdot3877\cdot3879\cdot5102$)により構成され、いずれの柱穴からも柱痕跡が確認されている。柱穴6基(P $3784\cdot3785\cdot3792\cdot3794\cdot3797\cdot3798$)は密集して検出されたことから建て替えが行われた可能性も考えられる。検出した柵列の長さは13.50mで、各ピット間は $10\sim360$ cmとばらつきがある。各ピットの規模は径 $15\sim35$ cm、深さ $21\sim53$ cm、柱痕跡は径 $10\sim20$ cmである。遺物は出土していない。



第5図 SA257·258柵列断面図

SA258柵列(第 $1\cdot5$ 図) E $180\sim200\cdot$ S $30\sim40$ グリッドで検出した。方向はほぼ東西正方向で、SA257の南側に隣接・並列している。楕円形・円形・隅丸方形のピット28基(P $3795\cdot3796\cdot3799\sim3806\cdot3812\cdot3858\cdot3859\cdot3861\sim3863\cdot3866\sim3868\cdot3873\sim3876\cdot3881\sim3883\cdot3886\cdot3888$)により構成され、いずれの柱穴からも柱痕跡が確認されている。部分的に柱穴が重複ないしは密集していることから建て替えが行われた可能性も考えられる。柵列の長さは15.10mで、各ピット間は接するものからかなり離れているものまでSA257と同様にばらつきがある。各ピットの規模は径 $15\sim34$ cm、深さ $11\sim68$ cm、柱痕跡は径 $7\sim13$ cmである。遺物は出土していない。

6) ピット (第1図)

265基のピット (P3718~3782・3788・3789・3791・3793・3809・3816~3857・3891~4037) を調査区全域で検出した。ピットは調査区南側のE180~190・S50グリッドと、中央東側及び北側のE190・S30~40グリッドに多く分布している。遺物は出土していない。

3. 6 A 区の調査

6 A 区では基本層 V 層上面(古墳時代~古代の遺構検出面)において、土坑 1 基、性格不明遺構 1 基、河川跡 1 条を検出した。

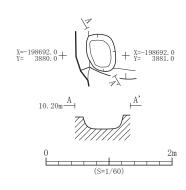
(1) V層検出の遺構と遺物(第7図、図版1)

1) 土 坑

SK4071土坑(第6図) E80・S290グリッドで検出した。平面形は楕円形で、長軸方向は $N-7^\circ$ -Wである。規模は長軸60cm、短軸45cm、深さ18cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形はU字形で、底面は平坦である。遺物は出土していない。

2) 性格不明遺構

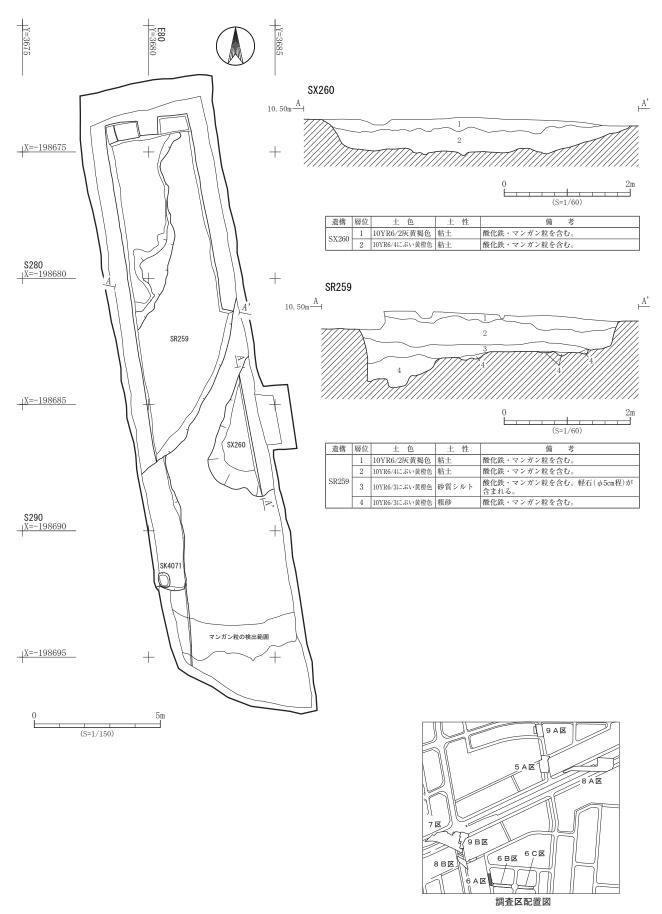
SX260性格不明遺構 (第7図) E80・S280グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。平面形は隅丸長方形と思われ、長軸方向はN-20°-Eで



ある。検出した規模は北東から南西方向5.10m、北西から南東方向2.85m、第6図 SK4071土坑平面図・断面図 深さ45~55cmで、断面形は逆台形である。堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

3) 河川跡

SR259河川跡(第7図) E70~80・S270~280グリッドで北東から南西方向の自然流路を検出した。検出長 14.40m、幅4.50m以上、深さ40~120cmである。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。



第7回 大野田古墳群6A区V層遺構配置図、SX260性格不明遺構・SR259河川跡断面図

4. 6 B区の調査

6B区では基本層 V 層上面(古墳時代~古代の遺構検出面)において、土坑 3 基、性格不明遺構 1 基、溝跡 1 条、ピット23基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。ピットについては、遺構配置図にのみ表示している。

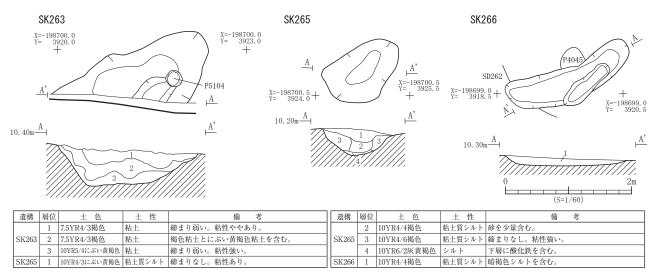
(1) V層検出の遺構と遺物(第10図、図版2)

1) 土 坑

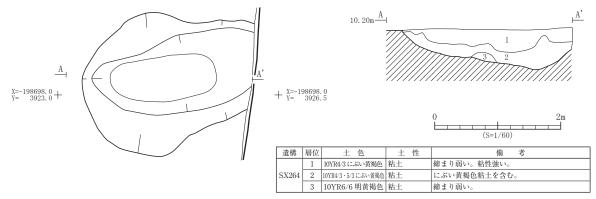
SK263土坑(第8図、図版2) E110~120・S290~300グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。P5104 と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は不明で、検出した規模は北東から南西255cm、北西から南東115cm、深さ50~55cmである。壁面はやや開きぎみに立ち上がり、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK265土坑(第8図、図版2) E120・S290~300グリッドで検出した。平面形は不整楕円形で、長軸方向は N-50°-Eである。規模は長軸125cm、短軸85cm、深さ29~43cmである。壁面は急角度で立ち上がり、断面形は逆台形で、底面は擂鉢状である。堆積土は4層に分層される。遺物は出土していない。

SK266土坑(第8図、図版2) E110~120・S290グリッドで検出した。SD262、P4045と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形は長楕円形で、長軸方向はN-65°-Eである。規模は長軸203cm、短軸65cm、深さ3~19cmである。壁面は開きぎみに立ち上がり、断面形は皿状で、底面の南側には細長いピット状の掘り込みがある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。



第8回 SK263·265·266土坑平面図·断面図



第9回 SX264性格不明遺構平面図·断面図

第10図 大野田古墳群 6B 区V層遺構配置図、SD262溝跡断面図

2) 性格不明遺構

SX264性格不明遺構(第9図、図版2) E120・S290グリッドで検出し、東側の調査区外へ延びる。平面形は不整楕円形と思われ、長軸方向はN-79°-Eである。検出した規模は長軸現存長280cm、短軸220cm、深さ40~63cmで、断面形はU字形である。底面は東側へ傾斜し、堆積土は3層に分層される。遺物は出土していない。

3) 溝跡

SD262溝跡(第10図、図版 2) E110・S290グリッドで検出し、南側は途切れ、北側の調査区外へ延びる。 SK266、P4047・4048と重複関係にあり、SK266より新しく、ピットより古い。長軸方向はN-16°-Wの南北溝で、規模は長さ3.95m、幅35~45cm、深さ10cmである。断面形はU字形で、堆積土は2層に分層される。遺物は出土していない。

4) ピット (第10図、図版2)

23基のピット(P4038~4059・5104)をE110~120・S290グリッドで検出した。遺物は出土していない。

5. 6 C 区の調査

6 C 区では基本層 V 層上面(古墳時代~古代の遺構検出面)において、性格不明遺構 4 基、溝跡 1 条、小溝状遺構群 2 群、ピット10基を検出した。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。

(1) V層検出の遺構と遺物(第11図、図版3)

1) 性格不明遺構

SX268性格不明遺構(第12図) $E150 \cdot S300$ グリッドで検出した。小溝状遺構 $II-4 \cdot 6$ と重複関係にあり、本遺構が古く、南端は撹乱で削平されている。平面形は不整形で、長軸方向は N-7°-W である。検出した規模は長軸225cm、短軸195cm、深さ12cmで、断面形は皿状であるが、底面の西側にはピット状の掘り込みがある。堆積土は単層である。遺物は出土していない。

SX269性格不明遺構(第12図) $E160 \cdot S290 \sim 300$ グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。SX270 · 271、小溝状遺構 $I-4 \sim 6$ と重複関係にあり、SX271より新しく、他の遺構よりも古い。平面形は楕円形と思われ、長軸方向はN-5°-Eである。検出した規模は長軸350cm、短軸270cm、深さ $40 \sim 53$ cmで、断面形は皿状である。堆積土は 4 層に分層される。遺物は出土していない。

SX270性格不明遺構(第12図) E160・S290~300グリッドで検出した。SX269・271、小溝状遺構 I-6・7、P4068と重複関係にあり、SX269・271より新しく、他の遺構より古い。平面形は不整楕円形で、長軸方向は N-87°-Eである。規模は長軸370cm、短軸250cm、深さ83~120cmである。断面形はU字形で、底面にはピット状の掘り込みが 2 ヶ所ある。堆積土は 5 層に分層され、 1 層は細分される。遺物は出土していない。

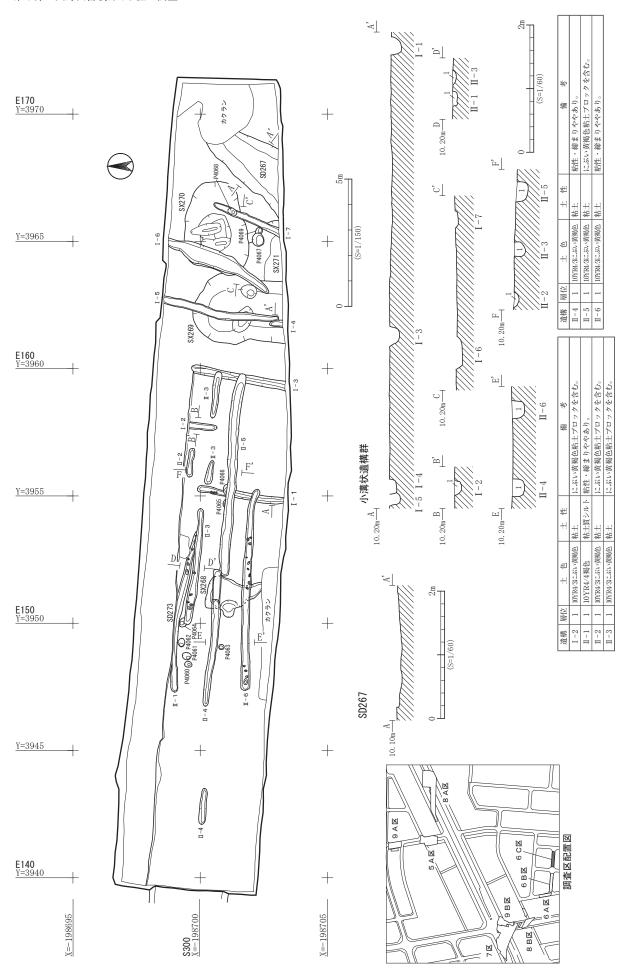
SX271性格不明遺構(第12図) E160・S300グリッドで検出し、南側の調査区外へ延びる。SX269・270、小溝 状遺構 I-6・7、P4067・4069と重複関係にあり、本遺構が古い。平面形及び断面形は不明で、検出した規模は東西270cm、南北215cm、深さ $3\sim$ 40cmである。堆積土は 4 層に分層される。遺物は出土していない。

2) 溝 跡

SD267溝跡(第11図) E160・S300グリッドで検出し、北東側は撹乱により削平される。南西側の調査区外へ延びる。主軸方向はN-40°-Eの北東-南西方向の溝で、検出長は4.10m、幅135~196cm、深さ10cmである。断面形は皿状で、遺物は出土していない。

3) 小溝状遺構群

畑耕作の痕跡と考えられる遺構群で、方向と重複関係から I・Ⅱ 群に分け、 I 群から Ⅱ 群への変遷が考えられる。 I 群 (第11図) E150~160・S290~300グリッドで検出した。 7 条の小溝で構成されている。SX269~271と重



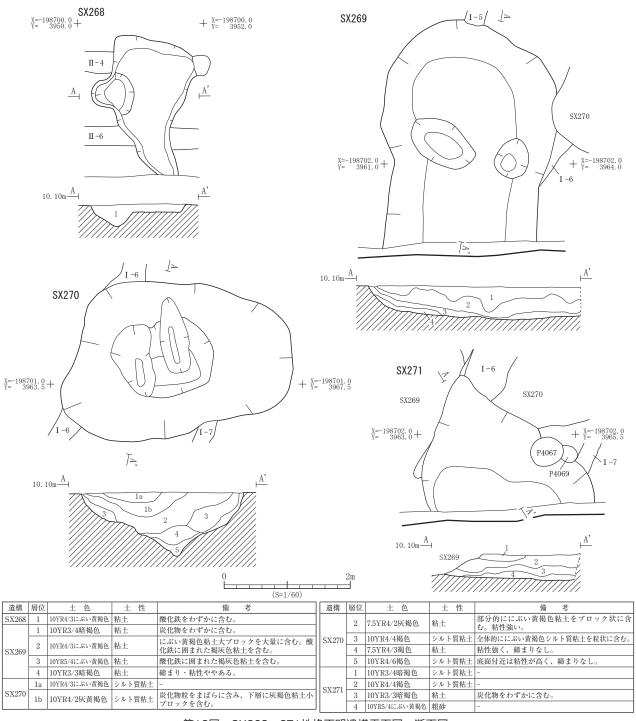
第11図 大野田古墳群6C区V層遺構配置図、SD267溝跡・小溝状遺構群断面図

複関係にあり、本遺構群が新しい。方向はN-3~27°-Eで、検出長0.50~4.55m、幅15~80cm、深さ 4~22cm、小溝の間隔は接するものから最大2.15mのものまである。堆積土はにぶい黄褐色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

II 群(第11図) E140~150・S290~300グリッドで検出した。東西方向の遺構群で、6条の小溝で構成されている。SX268と重複関係にあり、本遺構群が新しい。方向はN-81~86°-Wで、検出長1.15~10.05m、幅20~44cm、深さ8~21cm、小溝の間隔は接するものから最大0.55mのものまである。堆積土は、褐色粘土質シルトとにぶい黄褐色粘土を主体とする。遺物は出土していない。

4) ピット (第11図)

10基のピット (P4060~4069) を検出した。調査区全域に散漫に分布している。遺物は出土していない。



第12図 SX268~271性格不明遺構平面図·断面図

6. 7区の調査

7区では基本層 V 層上面(古墳時代~古代の遺構検出面)において、古墳 1 基、竪穴住居跡 3 軒、掘立柱建物跡 2 棟、土坑25基、河川跡 1 条、性格不明遺構10基、溝19条、小溝状遺構群 3 群、ピット325基を検出した。ピットは建物等の組み合わせを検討したが、明確なものは確認されなかった。また、下層調査区を設定して V 層以下の調査を行ったが、遺構は確認されなかった。ピットについては遺構配置図にのみ表示している。なお、現地調査では 7 A・7 B・7 C・7 D・7 E として調査を行ったが、以下の報告ではまとめて 7 区とする。

(1) V層検出の遺構と遺物(第13図、図版3・5)

1) 古墳

東側に隣接する王ノ壇古墳を含み、本遺跡では平成16年度までに古墳時代中期後半の古墳32基が調査された。これらの古墳のうち、墳丘が遺存していた古墳は第6節で詳細を説明する王ノ壇古墳、第7節で詳細を説明する春日社古墳のみで、その他の古墳は墳丘を削平され、周溝が残存するのみである。今回報告する28・29号墳も墳丘が削平されて周溝のみが遺存していた古墳である。28号墳は、本調査区及び平成16年度調査の9B区で検出されており、合わせて報告する。

大野田28号墳(第14図、図版4)

[位置・立地] 7区と9B区にまたがるW0-E0~E20・S180~190グリッドに位置し、周溝の約1/2を検出した。 [新旧関係] SD339 (9B区ではSD477)・386 (9B区ではSD480)、SX301、小溝状遺構 I-2・3・14、P4070・4071・4083・4319・4324~4327・4336・4337・4341・4343~4346・4348~4350と重複関係にあり、本遺構が古い。 [規模等] 周溝内縁径13.00m、外縁径17.30mの円墳である。周溝の上端幅は1.75~2.22m、下端幅は0.60~1.60m、深さ28~90cmである。断面形は逆台形であり、底面は凹凸が激しい。周溝堆積土は7層に分層される。

[出土遺物] 周溝堆積土より円筒埴輪と朝顔形埴輪、土師器壺・甕などが出土し、そのうち25点を第15~19図に図示した。第15図1~5は土師器壺・甕類である。1は大型の壺で、頸部から上を欠損している。2は胴部に最大径をもつ甕で、口縁部は「く」字に外傾する。3・4は小型壺もしくは甕の底部片である。5は胴部に最大径をもつ小型甕で、口縁部は弱く外反する。第16~19図は埴輪片である。このうち、第16図1・2は朝顔形埴輪、他は円筒埴輪片である。1は口頸部片で、かなり厚手の作りである。口唇部がやや波打っている。凸帯の直下に積み上げ痕が確認される。2は円筒部の大形片で、凸帯の直下に円形の透しがあるが、位置がずれている。3・4は凸帯直下に円形の透しがある資料で、3は透しの脇に線刻が施される。第17図1~3は口縁部片、第17図4~7・第18図1~6・第19図1は凸帯部の破片である。このうち、第17図4は凸帯が突出し、胎土もやや白っぽく精緻である。また、第18図1・4は円形透しの輪郭が確認される。第18図7、第19図1・2は基部の破片である。本古墳の年代は、細かいハケメを特徴とする球胴形の土師器甕や、垂れがなく比較的しっかりとした凸帯をもつ埴輪群から、5世紀後半から末葉の範疇に収まると考えられる。

2) 竪穴住居跡

S1366竪穴住居跡 (第20図)

[位置] W30・S190グリッドに位置する。

[新旧関係] なし。

[規模・形態] 長軸(南北) 2.80~3.00m、短軸(東西) 2.60~2.90mの方形である。

[主軸方向] 西壁の方向はN-23°-Eである。

[堆積土] 3層に分層した。1~3層は住居跡堆積土で、1層は焼土である。

[壁面] 床面から外傾して立ち上がり、壁高は床面から20cmである。

[柱穴] 主柱穴は検出されていないが、壁際に小規模なピットが5基巡っており、壁柱穴としての役割を果たして

